

「中学生との語る会」

日時：10月16日（日） 午前10時から（会場：区役所1003会議室）

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>台東区には美術館や図書館、伝統産業を扱うお店が数多く存在しており、めぐりんといった便利な交通手段があります。</p> <p>これらを活用して、街を活性化させるため、台東区独自の仮想通貨を流通させます。そして、先に挙げたような公共機関を使用することでポイントが得られ、そのポイントを、伝統産業を扱うお店や区内の商店街、その他のお店で使えるようにします。</p> <p>そうすることによって、台東区内全体を活気あふれる街にするとともに、観光客に台東区をとことん楽しんでもらえるようにしたいです。</p>	<p>台東区には商店街がたくさんあり、メディアにもたくさん取り上げられています。</p> <p>「区独自の仮想通貨」とは、台東区内だけで使用でき、スマホのアプリなどで決済ができる「地域通貨」のことだと思います。地域限定のお金となれば、区内でのコミュニケーションの活発化や経済効果も見込めますね。</p> <p>また、めぐりんに乗ってポイント貯めるという発想は新しい視点でした。めぐりんに乗って出かけて、貯めたポイントでご飯を食べたり、買い物したりできたら面白いですね。</p> <p>これからも、台東区の魅力を活かした活気あふれるまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私は、昔から続いている台東区のお祭りに行くことが、毎年の楽しみです。未来の台東区でもお祭りが盛んであってほしいと思います。</p> <p>コロナ禍にもなり、開催できなかった年もありましたが、今年に入ってから徐々に再開してきたと感じます。</p> <p>20年後には、海外からの観光客や居住者など、日本のお祭りをあまり知らない海外の方がいると思います。私の親戚も数年前に来て、お祭りに一緒に行きましたが、おみこしや屋台がどういうものかは知らず、不思議そうにしていました。簡単な広告動画作ったり、また、伝統のあるお祭りが次世代につながるように、多くの人に知ってもらえることが大切だと思います。</p> <p>日本の方、海外の方、多くの人に台東区のお祭りは楽しく伝統のあるものと伝えていきたいです。</p>	<p>台東区内では、皆さんの住んでいるそれぞれの地域でお祭りが盛んに行われています。新型コロナウイルス感染症の影響で、この数年は開催されませんでした。近い将来、あの活気がまた戻って来ると良いなと思います。</p> <p>私たちはお祭りと言ったらすぐにイメージできるものがあると思いますが、「なぜお祭りがあるのか」「お祭りの歴史はどういうものなのか」といったところは、まだ十分理解できていない部分もあると思います。地元のお祭りの歴史を調べれば、もっと自分の住む地域についても知ることができると思いますので、そんなことにも取り組んでほしいなと思います。</p> <p>区としても、台東区の魅力の1つであるお祭りをこれからもいろいろな人たちに紹介できるよう、区の公式YouTubeチャンネルなどを活用しながら取り組んでいきたいと思っています。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える未来の台東区はSDGsに積極的に取り組む台東区です。</p> <p>台東区は観光名所が多く、よく外国の方々が訪れている印象があります。その外国の方々にも台東区の良さをもっと知ってもらいたいです。</p> <p>そのためには、最近注目されているSDGsに耳を傾けてみるのが大切だと思います。その中でも、目標11の「住み続けられるまちづくりを」という目標は台東区にとって、必要不可欠なのではないでしょうか。</p> <p>台東区で開催される祭りはとても有名なため、毎年多くの方が訪れます。その反面、ごみの量が増え、悪い印象になってしまいます。来年も行きたいと思える祭りをするためには、今まで以上にごみを減らしていくことが大切です。</p> <p>そのためには、食べ物を販売する店でリサイクル可能な容器を取り扱い、それを出店の近くの回収棚に返却することでごみを減らすことができると思います。これにより道が綺麗で、初めて祭りに来た人でも「来年も行きたい」と思えるような町になると思います。</p> <p>そして、20年後には目標11も含め、SDGsが当たり前のように取り入れられている台東区になってほしいです。</p>	<p>SDGsは2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことで、17の目標があり、そのうちの目標11が「住み続けられるまちづくりを」ですね。</p> <p>台東区にとってもこの目標11はとても重要です。ごみの出し方がしっかりされなければ、まちは汚くなり、住みたいとは思えなくなってしまいます。</p> <p>区では、住み続けられるまちの実現を目指し、イベント時のごみの減量に向け、繰り返し使える食器の利用を促進するなどの取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>身近に感じていることから改善していくことで、より大きな目標を達成できると思います。より安全・安心に暮らし続けられる台東区を目指して一緒に頑張っていきましょう。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える「未来の台東区」は、誰もが平等に教育の場が設けられる台東区です。</p> <p>台東区は、伝統的な街並みが主な特徴の1つに挙げられます。たとえば、寺院や神社が多く建てられており、それを生かして、寺子屋として教育の場を設けている場所があります。</p> <p>台東区では、お寺の裏を活用し、無償学習支援やこども食堂を開き、地域の子供たちの居場所となるように改築された2階建てのスペースがあります。</p> <p>最近、家庭内での深刻な問題を抱えた子供たちが増えている印象があるので、このような居場所を作ることによって大幅に改善されると思います。</p> <p>そこで、私たち中学生も、無償学習支援のような活動で教える側として参加し、それをボランティア活動として取り入れられるようになってほしいです。</p> <p>そして、20年後にはこの活動が広まり、誰もが平等に教育の場が設けられる台東区になってほしいです。</p>	<p>子供の学習支援をはじめ、仲間と出会い活動ができる居場所づくりは大切だと思います。</p> <p>現在、区内では6つの支援補助団体が、親の就労や家庭事情などにより、孤立しがちな子供やそのご家族に学習支援や食事の提供などを実施しています。</p> <p>今回お話しのように、中学生も教える側として、無償学習支援のような活動に参加ができるようになると良いですね。</p> <p>これからも、区でも子供の居場所づくりに取り組んでいきたいと思っています。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>【タブレットの使用頻度が増えた台東区】 最近、教科書が重くて腰を痛めたり、姿勢が悪くなったりするということが全国的に多くあるので、タブレットをもっと使って体に支障が出ないようにしてほしいです。</p> <p>【英語をさらに強化していく台東区】 台東区には浅草寺や寛永寺などたくさんの観光スポットがあるので、外国から来た人たちが困ってしまうことがないよう、台東区全体の英語力を上げたいと考えました。</p> <p>【子育てしやすい台東区】 区民からパトロール隊を募集して、公園などで子供が安全に遊べ、親も安心できる台東区にしたいです。</p>	<p>まず、タブレットについてです。学校の教材はたくさんあって重たいですね。</p> <p>区でも現在、ICT教育環境の整備を進めています。今後もタブレット等を活用し、より便利に学習できるようにしていきたいと思います。</p> <p>次に、英語の強化についてです。区では学習指導要領で小学3年生からとされている外国語活動を小学1年生より実施しています。また、令和2年度から小学6年生を対象に、体験型英語学習施設で校外学習を実施しています。さらに、ALT（外国語指導助手）の先生を区立全小中学校に派遣しています。</p> <p>ほかにも、成人向けの英語講座なども実施しています。皆さんにも積極的に英語を学んでもらい、一緒に台東区の英語力を向上させていきましょう。</p> <p>最後に、子供が安全・安心して遊べる台東区についてです。区では、青パトによる「子どもの安全」巡回パトロールを実施していますが、安全を保つためには区民の皆さんの協力が不可欠です。</p> <p>地域での声掛けや困った人を助けることが当たり前になれば、誰もが安心して暮らせる台東区になると思うので、皆さんのご協力をこれからもよろしくお願いいたします。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>【どの世代も活躍できる台東区の未来】</p> <p>今、台東区は50代後半、70代の世代の方が多くいらっしゃいます。このままでは、労働不足から、自然や名所がたくさんある台東区ではなくなってしまうかもしれません。そこで、名所や世界遺産の魅力を生かし、たくさん若い人に「台東区に住みたい！」と思ってもらえるような活動をしていきます。</p> <p>今も子育てしやすい支援がありますが、さらに支援できる部分が増えると良いと考えています。具体的には、保育園の増加や資金の種類の増加をしたいと思います。</p> <p>また、70代の高齢の方でも活躍し、毎日を楽しめるイベントを増やしていきたいです。主に高齢の方と若い人が関わるイベントの企画、台東区に住み続けられている高齢の方が、台東区の魅力を伝える動画の作成などを企画されると良いと思います。</p>	<p>少子高齢化社会は、働く世代の減少や単身高齢者の増加など社会的に大きな問題です。若い世代が集まり子供も増えれば、より活力ある区になると思います。</p> <p>そのためには、受け入れるための環境づくりが大切です。保育園を増やしたり、子育てにかかるお金の支援をしたりするなど、限りある財源の中で工夫しながら今後も取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>また、高齢者が若い人と交流することは、楽しみを見つける素晴らしい機会だと思います。</p> <p>たとえば、地域のお祭りやラジオ体操などが挙げられると思いますが、そのようなイベント等の様子を、区の公式YouTubeチャンネルで発信しています。皆さんのような若い世代の方にもどんどん参加していただきたいと思っています。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>台東区には多くの観光スポットがあり、東京観光へ来た国内の方だけでなく、外国人観光客からも人気があります。人が集まれば犯罪も多くなり、地域住民にとっては喜ばしいことばかりではありません。</p> <p>20年後、今よりさらに安心して住むことができ、観光客にも好まれる台東区になるには、治安の安定は重要な課題だと思います。</p> <p>海外では屋内だけでなく、屋外で活躍するセキュリティロボットもいるそうです。台東区でもたくさんの国の言語に対応し、人の安全を守る日本製のセキュリティロボットが活躍する20年後を私は望んでいます。</p>	<p>観光地としての台東区を維持するために、治安はとても重要です。</p> <p>区では、安全・安心対策として、学校等の子供に関係する施設を中心に区のパトロールカーで区内を巡回する「子どもの安全」巡回パトロールを実施しています。</p> <p>また、郵便局など区内を巡回する業者に、本来業務と併せて防犯パトロールを行ってもらう「たいとう安全・安心パトロール協力隊」にご協力いただいています。</p> <p>テクノロジーの進歩に合わせて台東区も進化し、人が実施しているパトロール等がロボットでも可能になると良いですね。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>未来の台東区について、古く歴史のあるものと、新しい先進的なものが一体化した区になってほしいなと思います。</p> <p>台東区は浅草の浅草寺や雷門、上野の寛永寺や清水観音堂など歴史のある建造物が多いです。それは台東区の歴史を自分たちの後の世代にも伝えることができる大切なものです。</p> <p>こういった歴史的建造物を残しながら、便利で新しいものを増やしていくことで、古く、歴史のあるものと新しい先進的なものが一体化した素晴らしい区になっていくと思います。</p> <p>20年後も歴史ある街台東区であってほしいと思います。</p>	<p>古くからある歴史や文化、伝統という魅力を残しながら、時代の流れとともに「新しい」ものも取り入れていくということは、区にとって必要なことだと私も思います。</p> <p>「台東区教育大綱」の項目の1つに「古きものを知って新しきものを創る」という意味の「温故創新」という言葉があり、今回の発表にふさわしい言葉だと思います。</p> <p>区ではこれまで、「江戸に学び、未来を拓く」をコンセプトとした連続講演会を開催してきました。たとえば、江戸時代は循環型社会だと言われており、こうした江戸の人々の暮らしや生活を学ぶことは、今の私たちにとっても必要なことだと感じました。</p> <p>今後もこのような機会を通じ、台東区の歴史や文化を尊重し、伝統を継承、発展させるとともに、こころざしを立て、新たな地域や社会を創造するひとづくりを進めながら、「古く、歴史のあるものと新しい先進的なものが一体化した素晴らしい区」になるよう頑張っていきたいと思えます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>下町の雰囲気を残して行ってほしいです。私の住む町、浅草はニュースでもよく「下町」や「歴史ある町」と紹介されることが多く、このようなニュースがずっと続けば良いなと思いました。</p> <p>東京でも、浅草には古い町並みが多いので、「伝統」や「昔はこんな感じだった」というのが、この先ずっと受け継がれてほしいです。</p> <p>また、駐車場をはじめとした観光客を迎える施設が十分ではないと過去の資料に書いてありました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて、観光客の受け入れが緩和されてきた今はどうなっているのかお聞きしたいです。</p>	<p>若い世代の皆さんが、浅草の歴史や伝統が後世に続いてほしいと思っていただけることを、本当に嬉しく思います。</p> <p>台東区には、江戸の昔から続く伝統行事や神社仏閣などが多く残っています。また、人々の暮らしの中には、今なお、江戸のこころと文化が息づいており、これらは台東区の大きな魅力となっています。</p> <p>区では、こうしたまちや暮らしに色濃く残る「江戸たいとう」の魅力を、講演会やイベント、SNS等を通じて発信しています。</p> <p>住んでいるまちの歴史などを知ることで、さらに、その素晴らしさに気づいたりもしますので、区の取り組みなども活用して、自分のまちのことをたくさん知り、その魅力を伝えて行ってほしいと思います。</p> <p>今後も台東区の素晴らしさをより多くの方に伝えていき、その魅力をいつまでも残していきたいと思います。</p> <p>次に、観光客を迎える施設についてです。観光バスの駐車場については、これまで一定の時間に集中してあふれていたものを、予約制に切り替えました。また、1か所だけだった乗降場を分散させる取り組みも行い、今は落ち着いてきています。</p> <p>少しずつコロナ前に戻りつつあるので、区も商店街や地域の皆さんと一緒に、どうやっておもてなしをしていこうか、その受け入れ体制も含めて、現在取り組んでいます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>町を歩いていて、お互い知らない人でも明るい雰囲気です。挨拶ができれば良いなと思います。</p> <p>理由は私が通っている中学校も挨拶を常に意識していて、校内ですれ違う来賓の方や先生方にも積極的に元気良く挨拶をしているからです。</p> <p>挨拶だけでなく、町での道案内も大切だと思います。台東区は人が多いので、ルールを守り、良い意味で世界から旅行に来る人が増え、もっと有名になる町にしていきたいです。</p>	<p>元気よく挨拶すると、自分も清々しい気持ちになって元気が出ますし、相手も元気にさせる「力」がありますよね。</p> <p>人とのコミュニケーションの基本は「挨拶」だと思います。浅草で観光客の方も多く見かけるようになってきていますし、挨拶で明るいまちをアピールできれば良いですね。</p> <p>また、犯罪のない安全なまちにするためには、日頃から近所の人と挨拶を交わしたり、話をしたりして、コミュニケーションをとることが大事です。さらに、災害時には地域の皆さんで支え合い、助け合うことが必要になり、そのためにはやはり日頃からの挨拶やコミュニケーションがとても重要になってきます。</p> <p>これからも元気に挨拶をして、挨拶の輪を広げていきましょう。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>台東区が、国際交流の盛んな区になってほしいと思いました。</p> <p>台東区は、上野や浅草などがある有名な場所です。コロナウイルスの影響で外国人観光客が減少していましたが、近頃、入国規制が緩和されたことに伴い、国内外への行き来が活発になりました。</p> <p>したがって、私は海外の観光客が多いという台東区の特徴を生かし、文化交流を盛んにすることで、台東区をより良い街にできると考えました。台東区在住の日本人や在留外国人が台東区や各自の国について紹介する場があれば、台東区の魅力、海外の魅力を知ることができると考えました。観光客が訪れた際に、文化交流の場に出逢えれば、より良い印象を持ってくれたり、台東区がたくさんの人に知られたりすると思いました。</p> <p>私は実際に台東区に住む人たちで、台東区について楽しく交流できる場があると良いなと思います。国際交流が盛んな台東区になってほしいです。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で台東区でも様々なイベントが中止になり、観光客も減少しましたが、最近ではコロナ禍も落ち着きを見せ始め、旅行に行く人も増えるなど、以前の生活を取り戻しつつありますね。</p> <p>そういった中で、海外の方との文化交流の場を設けることは、私も非常に大切なことだと思います。</p> <p>区でも外国人との交流事業を行っており、子供たちが地域で暮らす外国人を取材した映像作品や、外国人からの視点で撮影した映像作品を見て、「多文化共生」の地域社会について考える「グローバルシネマ上映会」を実施しました。</p> <p>また台東区は、コロナ前は区内の中学生とも交流があったデンマーク「グラズサクセ市」と、オーストリア「ウィーン市第1区イネレシュタット」、オーストラリア「ノーザンビーチ市」の3か所と姉妹都市になっています。現在、コロナ禍で十分な交流はできていませんが、ノーザンビーチ市とは姉妹都市になって今年で40周年を迎え、区役所1階や文化観光センターでパネル展を開催したり、またオーストラリア料理の料理教室をオンラインで企画したりして、国際理解の促進を図る取り組みもしています。</p> <p>区内での文化交流が進み、より台東区のことやほかの国のことを知る機会が作れるように、もっと頑張っていきたいと思っています。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>大江戸清掃隊などの、道路等に捨てられたごみをなくして町をきれいにする活動がいろいろ行われており、そこに参加する人もたくさんいるにもかかわらず、「台東区はごみが多い」というイメージを持たれているのが悲しいです。だから、もっときれいなイメージを持ってもらえるようにしたいと思いました。</p> <p>また、浅草寺の辺りで外国からの旅行客の方々に道を聞かれることがよくありました。そこで、景観を損なわないようにしつつも、外国語の看板を作るなどして、観光がしやすくなるようになってほしいです。観光では、外国の方々に限らず、日本人たちにも、台東区の有名なところから台東区民でも知らないような細かい良いところを知ってもらって、「また台東区に来たい」と思ってもらえるようになってほしいと思いました。</p> <p>また、環境問題の解決につながるような自然を増やす取り組みが増えたら良いなと思いました。</p>	<p>大江戸清掃隊をはじめ、日頃から皆さんには区内の美化活動や啓発にご協力いただき、非常にありがたく感謝しています。</p> <p>また区では、「東京都台東区ポイ捨て行為等の防止に関する条例」を定め、マナー指導員も巡回していますが、それでもごみが無くならないのは私もとても残念に思っています。</p> <p>まちがきれいだと、住んでいる人も観光で来た人もみんなが気持ち良いため、引き続きマナー啓発等を行い、きれいなイメージを持ってもらえる台東区を目指していきます。</p> <p>自然を増やす取り組みも大切ですね。区では、区内の貴重な緑を保護樹木・保護樹林とし、自然を守る取り組みも行っています。</p> <p>また、平成28年度から「花の心プロジェクト」を実施しています。現在、花の心フラワーサポーター（草花育成ボランティア支援制度）として、17の小中学校が登録し、花育の活動をしていただいています。</p> <p>これからも「花の心プロジェクト」や緑化推進等を通して、心温かでうるおいのある台東区を目指して頑張っていきますので、皆さんもご協力をお願いいたします。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える20年後の台東区は、緑が多く子供が暮らしやすい区です。</p> <p>今の台東区は都市化が進み、マンションが建ち並ぶ環境になっています。その影響で緑が極端に減っています。子供が緑に触れる機会が少ないと、将来、緑に関わる職をする人が減ってしまうかもしれません。</p> <p>そのため、道路の隅に花を植えたり、建物に緑のカーテンを設置したりするなどして、20年後に「緑の台東区」となるようにしたいです。</p> <p>また、区立小中学校の学びの環境をより良くすることで、学校に通いやすくなると思います。具体例として、私は給食の良化を望みます。</p>	<p>20年後に緑や花であふれた台東区になったら、素敵なおことですよ。</p> <p>区では、区民の方に朝顔の苗をお配りしたり、区有施設で朝顔を育て緑のカーテンを作ったりする取り組みを行っています。</p> <p>さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに、浅草寺雷門前の並木通りに「おもてなしの庭」を整備しました。現在、草花を中心とした緑の空間を創り出し、台東区に訪れる皆さんをおもてなししていますが、もっと緑が増えるよう頑張ります。</p> <p>学びの環境については、今後も様々な取り組みを行っていきたいと思います。具体例として「給食の良化」を挙げてもらいましたが、給食の献立は、各校の栄養士の先生が皆さんの好みや栄養状態、健康を考えて工夫しながら作られています。今後も皆さんにとって魅力ある給食になるように、もっと工夫したいと思います。</p> <p>給食は栄養士の先生だけでなく、お米や野菜を作る生産者の方などの想いが込められています。これからもそのような生産者の方たちの想いを感じながら、おいしく食べてもらえたらなと思います。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私の考える未来の台東区は、様々な人たちから「台東区はすごく良い場所」と思ってもらえるような区です。</p> <p>台東区に観光に来た外国の方が、行きたい場所があっても、言語の壁によって行動が制限されてしまえば、台東区の魅力が十分に伝えられないと思います。</p> <p>そこで、外国の方が訪れることが多い施設やお店に翻訳機を設置し、言語の壁を無くすことで、十分に台東区の魅力を感じてもらい、「また台東区に行きたい」と思ってもらいたいです。</p> <p>新型コロナウイルスの影響はまだありますが、活気のある台東区をまた作りたいたいです。</p>	<p>台東区は上野や浅草、谷中など観光スポットが多くて、海外からの旅行者も多いですね。そこで、言葉がわからず、魅力が伝わらないと残念ですよね。</p> <p>台東区でも、区内に住んでいる外国人のためのタブレット通訳サービスを導入していたり、海外からの観光者向けのパンフレット等も作ったりしています。</p> <p>また、観光事業者の皆さんを対象に、外国人観光客を迎え入れるための心構えや、日常会話などの簡単な外国語を学ぶ「おもてなし講座」を実施しています。区では、より多くの外国人観光客にお越しいただくためのプロモーション活動と同時に、外国人観光客が区内観光を満喫していただくための環境整備にも取り組んでいます。</p> <p>これからも、外国の方に台東区の魅力が十分に伝わるように頑張ります。</p>